

# 福田寺だより

発行

神奈川県小田原市飯田岡二五七

飯田山 福田 田 土守

住職 橋本尚信

## 弘法大師の般若心経

### 呪じゆとしての経

『般若心経』というお経は、一部の宗旨を除いてほとんどの仏教界で読まれているお経で、短くて読みやすいことから、一般在家の方も親しんでいるお経です。この般若心経を解釈したものに、弘法大師の『般若心経秘鍵』という著作物があります。この『般若心経秘鍵』についての講義が昨年と今年の二度にわたり横浜で開講されました。講師は、住職の

高野山時代の恩師である松長有慶先生という方で松長先生は今や真言宗（密教）学者の中では第一人者と評される方です。住職が学生の頃は、松長先生の授業はインド・チベットといった密教史が中心でした。弘法大師について、その著作物についても教えていただかなかったので、その点も興味があり、二年続けて講義を受けてきました。

『般若心経』は一般に大般若教典を要約したもので、大乘仏教の『空』を説いた（中観思想）ものとして解釈されています。つまり色即是空に代表される如く、因縁・縁起や無執着の世界を説いたものです。以前、福田寺で開いていた「お経の会」での住職の話もそのようなものであった訳です。

しかし、弘法大師の『般若心経秘鍵』は全く別の角度から解釈したもので、それは般若菩薩の心の内を説いたもので、内容的には当時の他宗（南都六宗や天台）と真言の立場を説いて、真言の境地に立ってこの般若心経を呪すると、あらゆる功德がもたらされるといふ全く真言（呪）のお経として説いたものです。

この考え方はあまりにも奇抜で従来特殊な解釈として扱われてきました。一部の真言僧がお大師様の説いたものだからとして、少し疑問を持



ながら片付けていました。トタンは池の中など全部で四枚落ちていました。さて、枝を拾い上げてみるとこれが何と高野槨の幹ではありませんか。長さは二メートル弱あります。すかさず上を見上げると、本堂正面の両側に寺のシンボルとして聳えている高野槨の向かって左側の中心の幹が折れて落ちたものでした。高野槨の幹を折るなんてすごい風だったんだなーとその時は自然の驚異と諦めようと思いました。ところがその後例のトタンが実は寺のものでなく、お寺の裏の川向こうから屋根が飛ばされたものと分かりました。五〇メートル以上も何枚ものトタンが空中を吹き飛ばされてきた訳です。このことから察するに、高野槨もこのトタンがぶつかって切り落としたものだろうと思います。そう考えれば不自然に幹だけが折れていたことも納得できます。幹が折れた理由は分かっていたものの何とも口惜しい限りです。

しかし、ものは考えようで、もしトタンが人に当たっていたら命に関わる事故にもなりかねません。又、今年の自然災害に襲われた被災者の方々の苦勞を思えば、大難が小難で済んだ事にむしろ感謝すべきなのかも知れません。

高野槨の名誉のために、この木のいわれをお話致します。右側の木は先代真栄和尚が、晩年（今から約四〇年前）高野山に参拝した折、苗木を三本持ち帰り、その内の一本が成長したものです。左側の木は本堂落成に際して、込山造園の先代親方が丁度高さも同じくらいの高さになる高野槨があるからと植えてくれたものです。本堂前両側にお寺のシンボルとして年々成長をしてきました。何とか横枝を上には伸ばして元の姿に近い状態にできればと思っています。物言わぬ木は様々な人の思いを背負ってそこに立っています。お参りの際はどうか温かく見守って下さい。

## （ 仏 前 結 婚 の 勸 め ）

縁あって今年の暮れに仏前結婚式（導師）を努める事になりました。あるご寺院の副住職がお嫁さんをもろう事になり、そのお寺で仏前結婚式を挙げる事になったのです。ご寺院の場合は当然のことですが、最近一般の方でお寺で挙式をするカップルも時々あります。そこで仏前結婚式とは、どんなものかご紹介します。式場はお寺（菩提寺の場合が多いです）で、披露宴の会場は別が多いです。式の内容は仏前結婚式が多いのですが、そのために戒を授けることが主なことです。念珠の授けや誓水を交わすことも行われます。神前やチャペルでの式が多い中、厳かさや雰囲気など、生涯の誓いをたてるのに仏前での式是非お勧めいたします。とても感動しますよ。

新年厄除け薬師護摩供養

申し込み受付中

一月八日午後一時より修行

恒例の新年厄除け護摩を一月八日

記

午後一時より修行致します。護摩を

期日・・・一月八日、午後一時より

焚く修行は、近年いろいろな所でさ

祈祷料・・・三千元

れていますが、正統に受け継がれて

祈祷内容・・・厄難消除（厄よけ）

いるのは密教寺院であります。福田

身体健全、病魔退散、家内安全、

寺は、京都・東寺を本山とする真言

交通安全、商売繁盛、業運繁栄、

密教の寺で、創建以来八百六十八年

学業成就、合格祈願、安産祈願、

、密教寺院としての歴史を刻んで参

子授け祈願、その他

りました。

申し込み・・・一月七日まで、電話可

檀家以外の方でも勿論結構ですの

電話 0465(36)2755

で、皆様お揃いで新年の護摩供養に

FAX 0465(37)6688

平成十七年厄年

男性

- 前厄 昭和四十年生まれ
- 本厄 昭和三十九年生まれ
- 後厄 昭和三十八年生まれ

女性

- 前厄 昭和四十九年生まれ
- 本厄 昭和四十八年生まれ
- 後厄 昭和四十七年生まれ

元日祈願

除夜の鐘とともに、本堂の扉を開けておきます。

午前0時より一時まで、住職により新年の御祈祷が修法されます。ご自由に参拝ください。

暮れのお参り

古い護摩札やお守りなどは、暮れのお参りの時に、本堂入り口に用意された納め場所に納めて下さい。特に大きなものや、燃えないものは、寺の者に連絡してください。

年回のお知らせ

来年度の年忌（年回）法要の張り紙を本堂に掲げておきますので暮れのお参りのときに自分の家の年忌を確認して下さい。年忌に相当している場合、法事の日取りを早めに連絡して下さい。